



寺報

2014年(平成26年)

No. 221

4月号

Zenkyo-ji monthly
Communications Paper
En [えん]

縁

楽しい仏教用語

その33

【自覚（じかく）】

「自覚する」ということは、自分の地位・状態・価値などを知り、自分のあり方をわきまえることをいいます。また、自覚症状などというように自分で感じることを意味する日常語です。

仏教では、「覺」は「さとる」ことで、すから、「自覺」はみずから覚ることです。さらに、みずから覚るだけでなく、教えを説いて他人を覚らせるのを「自覺・覺他」といいます。これは菩薩の実践行です。

【四苦八苦（しくはつく）】

お釈迦さまは、最初の説法で「人生は苦である」と教えられ、その姿として四苦八苦を説かれました。四苦とは、生・老・病・死という人間としての根本的な苦を指しています。

この四苦に、愛するものと離れねばならない愛別離苦、いやなものに会わねばならない怨憎会苦（おんぞうえく）、欲しいものが手に入らぬ求不得苦（ぐふとづく）、人間の心身を形成する五要素から起こる五陰盛苦（ごおんじょうく）の四つを加えて、八苦とされたのです。

現在、非常に苦しむ

という意味でよく「四苦八苦」などといいま

志願は、今では学校の入学試験に欠かせない言葉となっていますが、もと

は仏教語です。



善教寺「木」シリーズその1『善教寺の五葉松』

（辻本敬順氏「仏教用語豆辞典」参照）

仏教では、文字通り志して願うことを行います。心の底から深く願うことを行います。

『無量寿経』というお経の中に「世自在王仏、その志願の深広なることを知らしめして」とあるように、大事な願いのときに用いられている語です。

住職レター

暑さ寒さも彼岸まで。ようです。

今日は寂しいお知らせをしなくてはなりません。

善教寺境内の五葉松（ゴヨウマツ）、

昨年より枯れ始めたことは、

以前にも報告させてもらいました。栄枯盛衰、諸行無常…。樹の寿命なのでしょう。延命治療も効果は無いと診断されており、このまま枯れて朽ち果てるのを待つことこそ、五葉松に対して申し訳なく思い、お隠れ頂く決断を致しました。

彼岸の中日（三月二十一日）に、善教寺総代、仏教壮年会、仏教婦人会の代表にお参り頂き、お隠れ法要の読経を勤め、最後のお別れを果たしました。

私が生まれた時から、もう既にその場に鎮座し、雨風

雪に耐え忍んできた、善教寺境内の五葉松。威風堂々とした様から、生き方をも教えて頂きました。樹の寿命とは云え、お守り出来なかつた事は、申し訳なく思つています。



枯れ逝く五葉松

五葉松を、忘れず
にいてくださいね。
皆さまのご記憶に留
めておいて頂けるこ
とが、五葉松にとつ
ては何よりの供養か
と思ひます。



五葉松お隠れ法要